

ARLISS運営WG活動報告

ARLISS運営WG代表

須藤雄哉(慶應大), 山田皓司(理科大), ○土岐周平(首都大)



今年で**2年目**となる学生主体の運営として

1. 能代宇宙イベント缶サット競技部門運営
 2. ARLISS運営
 3. SPindle運営
- を行った。

第6回能代宇宙イベント



- 6回目を迎えた今年は**過去最多**の17大学
20チームの参加があった.
- 昨年のアンケート結果を考慮して**遅延の
ペナルティ**ルールを設けた.

優勝 九州工業大学 KINGS 12.8m

準優勝 東京理科大学 Ungarian 35m

3位 東京理科大学 Falco 64m

能代宇宙イベント後のアンケート結果



配布資料について	3.82
前日打ち合わせについて	3.59
競技全般について	3.59
ペナルティルールについて	4.12
缶サット報告会について	3.65
ロケット報告会について	3.47
技術交流会について	3.94

5段階評価



- 日本, 米国, 韓国, ノルウェー, フランスから **22チーム**が参加した.
- 競技前日に**技術交流会**を行った.
- 最終日には午前中の英語の発表の他に, 午後に**日本語**で各チームがチャレンジしたことを**発表するチャレンジコンペ**を行った.



カムバックコンペティション

優勝 東北大学 4m

準優勝 ハワイ大学 1,000m

3位 慶應義塾大学 2,360m



チャレンジコンペティション

優勝 大阪府立大学 81pt

準優勝 東北大学 79pt

3位 首都大学東京 63pt



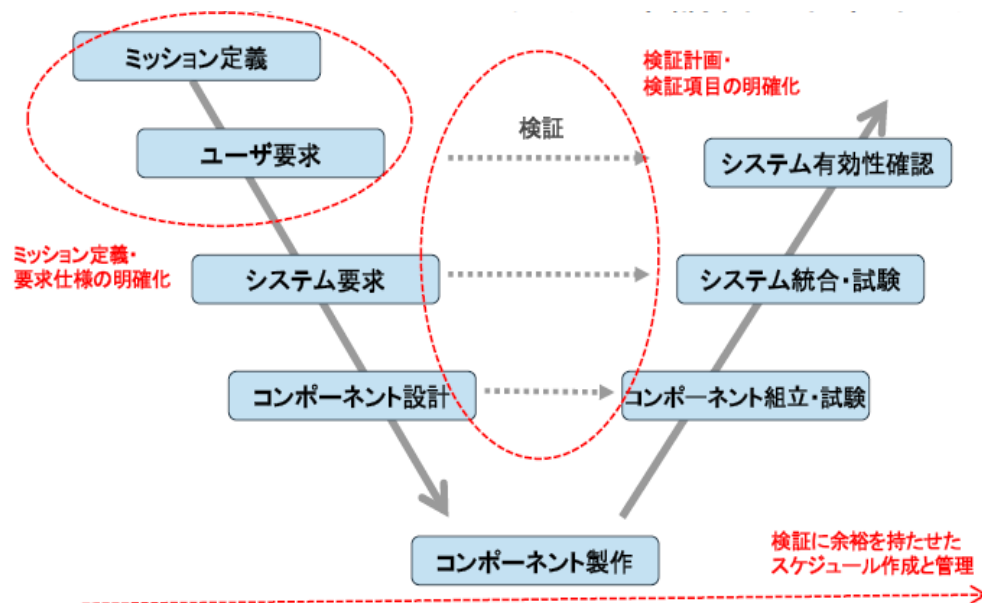
ARLISS後のアンケート結果



配布資料について	3.67
技術交流会について	83%
競技全般について	3.70
結果報告会について	3.30
チャレンジコンペについて	3.82

5段階評価

SPindleについて



16チーム中9チームが参加

- (1) ミッション定義・要求仕様の明確化
- (2) 検証に余裕を持たせたスケジュール作成と管理
- (3) 検証計画・検証項目の明確化

SPindleについて



日程	設計審査名
5月	Mission Definition Review (MDR)
6月	System Specification Review (SSR)
7月	Preliminary Design Review (PDR)
8月	Critical Design Review (CDR)
9月	ARLISS
10月	Lessons Learned Review (LLR)

参加チームの事後評価

定期的なレビュー会

進捗状況の把握が正確にできた。
開発審査によって**マイルストーン**になった。
検証に重点を置き開発を行えた。

審査書類の公開

他大学の資料を閲覧でき、非常に参考になった。
引き継ぎ資料として研究室・UNISECの財産になる。

審査員の方のコメント

外部の方の意見が伺えるのは貴重
レビューに対しコメントで適宜問題点を指摘していただいたことで
何が本当に必要なのかを検討できた。

SPindle口頭発表会



- 参加チームがプロジェクトの自己評価を行い、成功・失敗した理由を分析、審査員がコメント



アンケート結果



良かった点

SE/PMについて学ぶことができ良かった。

SPindleの3つの狙いに対して適切な分析，失敗の原因を究明しようという姿勢が見られて良かった。

発表会に来てSPindleが役に立つことだと思えた。

悪かった点

設計書の自由度が高かった。

設計書を書く頻度が多かった。



- CanSatに適した設計書, レビュー方法, レビュー回数
- 文章作成講座
- 振動試験などを合同で行える体制作り
- 過去のプロジェクトで使用した文書, 今年のSPindleの設計書をDB化

SPindleは継続することによって効果が出る.



- SPindleにご協力して頂いた，坂本先生（東工大），神武先生（慶應大），白坂先生（慶應大），狼先生（慶應大），UNISASの方々，そして今年度のARLISSに携わった学生及び教員に厚く御礼申し上げます。